

まつばらたなか いせき
松原田中遺跡

湖南のくらし発見!

平成22年度の
発掘をPlayback!

2つの調査区からは、それぞれむかしの田んぼと住居跡を確認しました。



国土地理院1/25000地形図「鳥取南部」より

田んぼの調査(1区)

弥生時代から中世、中世から現代へと田園風景が
連綿と続いていることが分かりました。



中世の田んぼ

弥生時代の田んぼ

弥生時代前期の溝

溝の中からみつかった作りかけの鍬

住居跡の調査(2区)

1区の東側にあたる2区からは、古墳時代の竪穴住
居跡がみつかりました。



竪穴住居跡

円形にめぐる溝
(土器がたくさん捨てられていました)

土器だまり(弥生時代から古墳時代)

長い年月を経て・・・

土器の破片は足の踏み場もないほど
広がっていました。

弥生時代から古墳時代の数百年、この場所で生活した人々は
同じようなとるに何度も柱を立てたり、穴を掘ったりして
いました。調査が終わると穴ぼこだけになりました。

鳥取西道路の

遺跡を掘る!

第23号 2011年3月22日

昨年調査をした高住平田遺跡
で、木の板を削って、烏帽子をか
ぶった人の横顔を表現した木製品
がみつかりました。

この木製品から、高住地区のど
のような歴史がみえてくるので
しょうか。



- ① 本高弓ノ木遺跡 (鳥取市本高内地内)
- ② 宮谷26号墳 (鳥取市嶋内地内)
- ③ 高住平田遺跡 (鳥取市高住地内)
- ④ 松原田中遺跡 (鳥取市松原地内)

横顔を表現した木製品

この木製品は、人の災いを取り除くおまじな
いに使われた人形代と考えられます。

平安時代終わりから鎌倉時代(約700~
800年前)につくられたもので、首より下は
折れて失われています。

烏帽子には、いくつかの種類がありますが、
この人形代では立烏帽子の形につくられていま
す。立烏帽子をかぶった人物が、都のようすを
描いた絵巻物に登場していて、その絵と人形代
を比べると、烏帽子の形やかぶり方がそっくり
です。顔の特徴もわかるような丁寧な作り
で、特定の人物を表わしたのかもしれませんが。

立烏帽子は、都では身分の高い人(貴族)し
かかぶることができないものとされ、人形代は
貴族を表わしたものとみられます。

これらのことから、高住地区には、京都から文化や情報がもたらされていたと考えられ
ます。もしかすると、都から来た貴族がこの周辺にいて、ここでおまじないをしたのかも
しれません。



高住平田遺跡で
みつかった人形代
(破線は推定)

絵巻物に描かれた
立烏帽子をかぶる人
(『伴大納言絵詞』から引
用・加工)

(財)鳥取県教育文化財団
調査室
美和調査事務所

〒680-1133
鳥取市源太12番地
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)

TEL: 0857-51-7553
FAX: 0857-51-7550
メールアドレス:
matsuik@pref.tottori.jp



鳥取県立博物館の「歴史の窓」のコーナーで
本高弓ノ木遺跡の速報展が開催されます。

現存する国内最古の「土のう」をはじめとする
貴重な出土品が展示されます。ぜひお越しください。

展示期間: 3月29日(火)~5月29日(日)
(4月4日(月)、25日(月)は休館日です)

もとだかゆみのき いせき
本高弓ノ木遺跡 **今年も大発見!**
 平成22年度の発掘をPlayback!



木製構造物の間から出土した「土のう」
 確実な発掘例としては、国内最古のものです。
 (3月29日から5月29日まで、
 県立博物館「歴史の窓」にて展示されます!)



北方へ水を引くための水利施設と考えられます。
 一辺20mほどの巨大な盛土(弥生時代後期)



四方の隅が突出する特殊な形をしており、
 お墓の可能性もあります。



貯木場からは、縄文時代から弥生時代にかけての土器もたくさん出土しました。
 (現在、復元作業中!)



みやだに ごうぶん
宮谷26号墳 **長大な埋葬施設!**
 平成22年度の発掘をPlayback!



直径10mの円墳からは、長さ3mにおよぶ埋葬施設が発見されました。埋葬施設の中には、6世紀末から7世紀初めにかけて作られた須恵器が、お供えしてありました。



たかずみひらた いせき
高住平田遺跡 **珍しい遺物が続々!**
 平成22年度の発掘をPlayback!



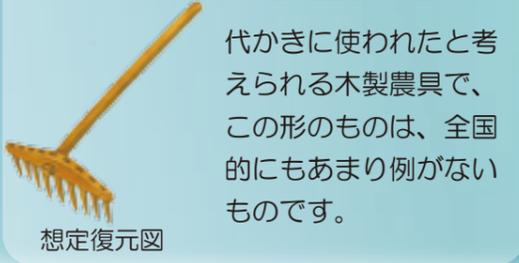
高住地区で初めて本格的な発掘調査を行いました。
 県内ではあまり例がない遺物がいろいろ出土しました。なかには、
 貴族との関わりをうかがわせるものも・・・(トップページ参照)。



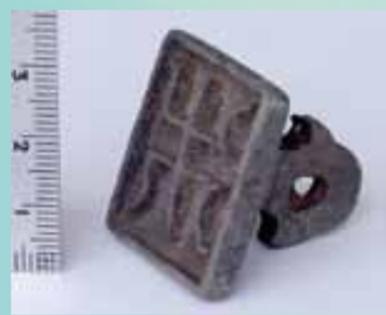
川底からは多くの土器が出土。墨で文字が書かれたものや、漆で記号を書いたものもありました。



川の中に打ち込まれた杭列。橋脚の可能性がります。



代かきに使われたと考えられる木製農具で、この形のものは、全国的にもあまり例がないものです。



県内で5例目になる銅印が古代の地層から出土。役所や寺院、貴族邸宅などでしか使われないもので、印面は「木」と読むことができます。